

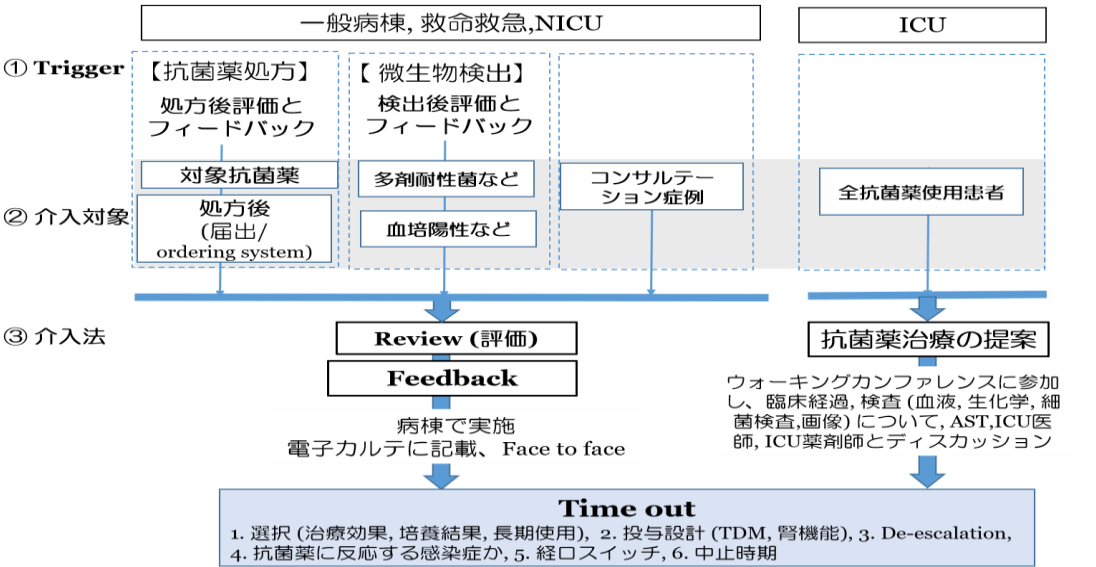
Ⅱ. 抗菌薬適正使用支援チーム（AST）



抗菌薬適正使用支援（Antimicrobial stewardship: AS）は、病院全体の検出菌の抗菌薬感受性の改善、多剤耐性菌感染の減少、平均入院期間の短縮、個々の患者さんの感染症治療の成績の向上、抗菌薬による副作用の予防を目的としている。

具体的な活動内容として、①コンサルテーションサービス、②集中治療（intensive care unit, ICU）での抗菌薬適正使用支援、③抗菌薬処方後の適正使用評価とフィードバック、④微生物検出がtriggerとなる介入：a. 血液などの無菌部位からの菌検出時、 b. 多剤耐性菌検出時、 c. *difficile*迅速検査陽性時、⑤アンチバイオグラムの作成と院内への周知、⑥抗菌薬使用状況調査、⑦抗菌薬適正使用に関する教育、⑧抗菌薬に関する院内マニュアル作成と改定、⑨院内で使用可能な抗菌薬種類の定期的な見直し、⑩抗菌薬適正使用支援チームが存在しない医療機関からの相談への、対応などを行っている（Ⅱ－１，Ⅱ－２）。

Ⅱ－１ 抗菌薬適正使用支援の対象患者と介入方法



Ⅱ－２ ASプログラムの対応患者数と延べラウンド回数 (人)

| 区 分            |                                       | 2024年度 | 2024年度<br>構成比率(%) |
|----------------|---------------------------------------|--------|-------------------|
| コンサルト対応        |                                       | 536    | 40.0              |
| ICU（抗菌薬使用全症例）  |                                       | 176    | 13.1              |
| 抗菌薬処方<br>介入    | 処方後および培養結果による介入<br>(TAZ/PIPC, カルバペネム) | 100    | 7.5               |
|                | 特定抗菌薬の長期使用例                           | 312    | 23.3              |
| 微生物検査<br>による介入 | 無菌部位（血液、髄液等）からの検出に対する<br>速やかな抗菌薬適正使用  | 141    | 10.5              |
|                | 特定耐性菌に対する抗菌薬適正使用                      | 31     | 2.3               |
|                | <i>C. difficile</i> 腸炎の治療選択           | 44     | 3.3               |
| 合計             |                                       | 1,340  | 100.0             |
| 延べラウンド回数       |                                       | 10,042 |                   |